

校長室より

「天空高き」



第140号



令和2年12月3日

じんけんフェスタ2020 in いわくに

標記の大会が11月17日(火)に岩国市民館大ホールで開催されました。

本校からは、作文の部でF1-2の中村天音さんが入選、中3-1の古川匠君が佳作、ポスターの部でS1-1の西村舞奈美さんが佳作で表彰されました。また、作品募集に積極的な取り組みをしたということで、「学校賞」を授与しました。

人権とは、私たちが人間らしく生きるための権利です。人種や民族、性別などの違いにかかわらず、すべての人に共通して備わっている権利です。しかし、現在でも、「人種差別」、「難民」、「民族紛争」などによって多くの人権問題が発生しています。

近年日本国内において、2011年3月11日に発生した東日本大震災、2016年の熊本地震や2018年の西日本豪雨などの頻発する大型の災害は、多くの人々に甚大な被害をもたらしました。これらの災害の中で、社会的に弱い立場になりやすい女性や子ども、高齢者、障害のある人たちの人権が大きな問題となっています。災害のたびに弱者の方々が避難できず亡くなられているからです。

私たちは、弱者の立場に立って考え行動することが必要です。そして、他人事ひとことでなく、自分事として受け止める姿勢が大切です。

金子みすゞさんの詩『私と小鳥と鈴と』の中で、「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」というくだりがあります。この視点を大事にして、皆さん一人ひとりが人権問題に真剣に取り組んでいきましょう。

災害は忘れる前にやってくる—自分事として捉える—

東日本大震災発生からもう10年になろうとしています。いずれ南海トラフが起こるとも言われています。我が国は台風や豪雨災害による河川の氾濫など、近年、毎年



人生で一番大事なものは、何をおいても一所懸命になることです。

神戸将守(浪花家総本店)

「災い」に見舞われています。

12月に入ると、本校でも防災に備えて避難訓練を行います。地震・津波や火災を想定しての訓練ですが、生徒、我々教職員を含め、100%の真剣さで行われているのでしょうか。

私たちはどんなすごい災害を想定しても、「自分たちは大丈夫だろう」という深層心理が働いていると言われています。

南海トラフ地震では30万人が犠牲になると言われていますが、誰もが30万人の中に「自分や家族」を含めてはいないでしょう。防災を自分のこととしてではなく、他人事にして捉えているように思えます。

「防災訓練が自分事として捉えられないのは、訓練が恐怖をあおっているからで、自分や大切な人が助かるための訓練になっていないからだ」と、東日本大震災でお子さんを亡くされた元教師で「小さな命の意味を考える会」代表の佐藤敏郎さんは強調されています。

そして、続けて、食べるのも服も寝る場所も、電気も水も、あのとき大切だったものは、今日だって大切なもの。今日もないと困るものです。同じように信頼関係や習慣は、津波が来た時に、急につくられるものではありません。命はその最もたるもので、災害の時にだけ、急に大切になるわけではありません。すべてにおいて、「もしもは、いつものなかにある」と、訴えられています。

私たちはいつ起こるか分からない「災い」から命を守るため、日々の意識を変える必要があります。その前提は、自分事として捉えることです。自分や家族、そして大切な人の命を守るために何をしなければいけないのかを考え、計画を立てて行動して下さい。災難は忘れる前にやってきます。



念願のニューヨークへー第14回全日本高校模擬国連大会ー

本チームが13回目の出場で見事に「地域特別賞」を獲得して、念願であった高校模擬国連国際大会（ニューヨーク国連大学）への参加資格を手に入れました。

本校チームは、2年連続で出場の六年制普通科2年、森脇優・丸小野成輝さんの2名です。

まず、一次予選（審査）各校1チームの応募条件下で、全国から219チーム（校）が応募し、54チームの選抜枠に選ばれました。

本来ならこの選抜大会は、毎年11月に東京の国連大学で開催されていましたが、今回はコロナ禍でしたので、オンラインでの開催となりました。



今年度の議題は「宇宙利用」で、彼らはイラン大使として、各国と建設的な議論・交渉を行いました。

来年の5月には国際連合本部ビルのあるニューヨーク市で、全米から集まってくるアメリカの高校生たちとの交流会が開催予定でしたが、コロナ禍のために現在保留中です。それまでに新型コロナウイルス感染拡大が収まっていることを祈るばかりです。

ちょっと考えてみようー勉強は役に立つ？ー

問題 地球の赤道上が平坦であると仮定します。赤道に沿ってロープをハチマキのように1周させます。地球の周囲は約4万kmだと言われていますが、この4万kmのロープを2mだけ長くしてピンと張った時、ロープと地面の間を人がくぐりぬけることができるでしょうか。 出典「大問題」東京理科大学編集

解答 「寝転べば」くぐりぬけられる。

解説 はじめのロープの長さは、地球の半径を r m とすると、 $2\pi r$ m です。これが、2m ロープを長くしたときは $(2\pi r + 2)$ m となります。2m 長くしたときのロープの半径を R m とすると $2\pi R = 2\pi r + 2$ という式が成立します。両辺を 2π で割ると、 $R = r + 2 / 2\pi = r + 1 / \pi$ となり、ロープの半径は元の地球の半径より $1 / \pi$ だけ大きくなります。 $\pi = 3.14$ として割ると $1 / \pi = \text{約} 32 \text{ cm}$ なり、元のロープよりも約 32 cm 浮き上がるので、寝転べば大人でもくぐり抜けられます。

この式からわかるように、最初がどんな長さのロープでも、長さを2m増やしたときの半径の増加分は約 32 cm なのです。地球の半径という大きな数字に惑わされないことがポイントです。世の中、常識だけで判断すると間違えることがあります。

皆さんの中には、今習っている授業が社会に出て必要なのか、役に立つのか、という疑問を持っている人がいるかもしれません。私も、学生時代には同じような疑問を持っていました。

ジャーナリストとして各種メディアで活躍されている池上彰さんが、その疑問に対して、あるテレビ番組で次のように答えられていました。

東京オリンピックでゴルフでの出場を目指している、高校生ゴルファーからの質問。「ゴルフの試合で長期学校を休むことがあって勉強についていけないことがあるのですが、どうして数学を勉強しないといけないんですか。いつ使うかもわからないのに……」

その質問に対して、池上さんはゴルフを例に挙げて説明をされていました。

「池の淵にあるボールを向こう側に打つ時、池に落とさないように一度安全な方向に打ってから確実に送り出せる方法を選択することがありますよね。そうした三角形を頭の中にイメージして、瞬時に考え出せるのは算数から数学を勉強したからなんです」

皆さんはいろいろな教科、国語、数学、英語、社会、英語、芸術（音楽・美術・書道）・保健体育・家庭科等の授業を勉強しています。

わかるときもあればそうでないときもあります。できるときがあればできないときもあります。しかし、一所懸命に取り組むその姿勢が大事で、その学習の過程の中で、それぞれの教科、科目の見方や考え方を自然に学んでいきます。その見方、考え方が社会に出て役に立つということです。

「人生には何一つ無駄なことはない」と言われます。今を、前向きに、一所懸命に取り組むことで、この言葉の意味が次第にわかってくるようになるでしょう。

12月の月間目標

振り返る

令和2年度
チャレンジ目標

- 1 5分前考動
- 2 整理整頓
- 3 先に元気な挨拶
- 4 1%を誰かのために

2020年は新型コロナと共にスタートしコロナで終わりそうです。皆さんにとって、これまで経験したことのないようなことの連続だったと思います。

今までの当たり前前のが当たり前でなくなりました。この一年間を振り返り、皆さんにとって大切なものは何か。今、何をしなければならないのか。見えてきたのではないのでしょうか。

第99代内閣総理大臣に就任された菅首相は『我々が目指す社会像は「自助・共助・公助、そして絆』と言われていました。

皆さんが目指す2021年。どんな年にしたいですか。

二十四節気

大雪（たいせつ）12月7日

大雪には雪が激しく降り始めるころという意味があります。陽はさらに短くなって寒さが増し、冬が深まっていきます。

大雪のころになると冷たい空気からなる大陸の高気圧が優勢となり、西高東低の冬型の気圧配置の日が多く現れるようになります。西高東低の冬型の気圧配置になると、日本付近の上空にも強い寒気が南下するようになり、日本海側の山沿いや平野部でも雪が降ったり、各地で池や川に氷が張ったりします。

冬至（とうじ）12月21日 冬至は一年で昼が最も短い日です。

冬至にはゆず湯に入り、かぼちゃを食べる風習があります。ゆず湯は血行が良くなり身体が温まるため、風邪を防ぎ皮膚を強くする効果があるそうです。

冬至は一年で昼が最も短い日ですが、この日の日の出は岩国市で7時13分頃、日の入りは17時6分頃です。冬至の頃は、北に行くほど昼間の長さは短くなり、北極では一日中太陽が昇らない極夜になります。一方、南極では一日中太陽が沈まない白夜になります。

お天気.com